

令和6年度 自己評価・学校関係者評価 結果公表シート

香芝市立認定こども園鎌田幼稚園

1. 本園の教育目標

『わくわく のびのび たくましく～』

～健全な心身の基礎づくりと調和的な発達を図る～

- ・心身共に健康で明るく、だれとでもなかよく遊べる子どもを育てる。
- ・主体的に遊びに取り組む中で、よく考え工夫する子どもを育てる。
- ・豊かな感性をもち、感じたことを素直に伸び伸びと表現する子どもを育てる。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- 一人一人の心身の発達や生活背景を的確にとらえ、様々な経験や活動を通して心とからだの調和的な発達に努める。
- 一人一人の自主的、創造的な発想や表現の芽を大切に、良さを認めながら自己充実感をもたせる指導に努める。
- 望ましい人間関係と自主性を促進させるとともに辛抱強く行動できる子どもの育成に努める。
- 基本的な生活習慣と挨拶を身に付けさせるための、具体的な取り組みを実施する。
- 園児の充実した生活を支えるための家庭教育のあり方について保護者との連携を密にする。
- 研修により職員一人一人の資質向上に努め、年齢に応じた育てたい力を意識した教育・保育をすすめる。
- 防災や災害時の対応を考えるとともに「命を守る」ことを考える機会や訓練を実施する。

3. 評価項目・評価・取組と達成状況

評価項目	評価	取組と達成状況
(1) 安全管理・安全指導	A	・避難訓練では「園児自ら自分の命は自分で守る力」を身に付けられるようにした。防災士の方を招き、防災及び災害が起こった時の対応や防災に備えた準備について考えることができた。災害時のイラストを見ながら、自分たちで危険な箇所や行動を考えられるようにした。また、地震・火災など避難訓練を行うなど、命を守る取組を進めてきた。今後は、保護者の方と連携しながら、引き渡し訓練をしていきたい。 ・今年度も隣接する小規模保育園と共に合同で総合避難訓練を行うことができた。情報交換にも努める。 ・毎月1日を安全点検の日を定め、職員一人一人が危険箇所の有無を点検・確認した。担当箇所を決めより責任をもって安全点検ができるように行ってきた。
(2) 保護者や地域との連携	A	・保育所や小学校との交流することができた。職員間での話し合いを行ったり、園児・児童も互いに行き来したりして交流することができた。1年生の担任と5歳児の担任が内容やねらいを考えて計画することができた。 ・未就園児交流し、ふれあい遊びや制作活動、ミニ運動会など、様々な活動を年8回実施することができた。 ・ホームページで保育活動を保護者や地域に向けて発信し、掲示している。運動会や作品展、生活発表会の保育の過程をドキュメンテーションにすることで、子ども理解と子どもの育ちの過程を明確にし、保護者に発信することができた。
(3) 子ども理解と保育内容の充実	B	・教育目標『わくわく のびのび たくましく』を達成するために、子どもたちの姿をよく見取り、年齢や発達段階に応じた保育実践に努めた。週案の記録・反省では「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と照らし合わせながら、子どもの育ちを確認し、次週の週案作成を行ってきた。また、子どもたちの興味関心、意欲を高めてわくわくした気持ちで活動できるよう、一年間テーマを決めて活動し、デジタル機器を活用しながら、保育の導入や保育内容を工夫することに心掛けた。 ・ミドルリーダーが中心となり、遊びについての研修を幼児や遊びの見取りについての研修を行った。いろいろな立場、経験年数の職員が共に遊びを振り返ることで、幼児理解が深まる様子が伺え、遊びの発展にもつながった。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・園の豊かな自然環境の中で園児たちが伸び伸びと体を動かして遊ぶことができるように、職員は遊びや保育内容の工夫や環境づくりを行ってきた。園児の興味や関心に寄り添い、園児が遊び込める環境づくりを進めていきたいと考える。また、本園は保育年数や経験が様々な職員で構成されている。そのことを強みと捉え、それぞれの視点で園児を見取りながら、多角的に園児理解をし、よりよい保育を提供できるようにする。園児にとって安心して最適な環境づくり、子どもの確かな力を育むための指導力の向上に努めていきたい。
- ・参観及びドキュメンテーション・日々の保育の様子をホワイトボードに記載するなど、保護者の方々に園児の幼稚園での様子を見ていただく機会をつくることができた。また、小学校・保育所との交流や未就園児交流も行い、園児が様々な年齢の子どもたちと関わることができた。来年度は小学校・保育所との交流を今年度以上に定着させ、定期的なものにしていきたいと思う。また、職員間での話し合う機会ができたことは大きなことであるが、継続できるようつながていきたい。また、互いの学びについて伝え合い理解し合うことを大切にしていきたい。
- ・香芝市人権教育研究会にて本園の取り組みを報告した。職員が一丸となって取り組んでいることも園での様子や職員間の連携について報告できた。引継ぎノートの見直しや園児一人一人を大切に保育し職員間で取り組んできたことは子どもたちが安心して過ごすことにつながっている。今後も続けて取り組んでいく。
- ・昨年度より毎月25日のニコニコあいさつの日に挨拶についての取り組みを継続して行っている。絵本やダンス、パペット人形でのお話などを通して、園児が楽しみながら挨拶について学べるようにしてきた。「ニコニコあいさつ」ののぼりをあげる。職員が付けているニコニコあいさつの日のバッジを見ると、親子で挨拶をする姿もあり、園児だけでなく保護者の方にも意識付いてきていることを感じ嬉しく思う。引きつづき、取り組みを進めていきたいと思う。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組方法
特別な支援を必要とする園児への援助	・園児それぞれの発達段階を受け入れ、特別な支援を必要とする園児の特性を理解する。一人一人に合った関わりや支援方法について、職員間で対話する機会を大切にしながら共通理解し援助する。保護者と連携を取りながらすまいるノートを作成する。
教育の質と保育力の向上	・園内研修を計画し、互いの保育を見て学び合う。遊びについての研修を定期的に行うことで、園児理解を深め、遊び込める環境づくりや援助について話し合い互いの保育技術の向上に努める。
保護者や地域との連携	・保護者・地域の方・校種間の連携をすすめ、定着させるように努める。また、未就園児保育では未就園児の集いの場をつくり、保護者の方が気軽に話せる機会をつくっていきたい。

6. 学校関係者評価委員会からの意見と今後の改善について

- 毎日保育園に行くのが楽しい、うれしい、園児からそう思われる保育園を運営してほしい。
- 入園式～生活発表会と園を訪問する度に、その園歌にあるように自然豊かで、雄大な二上山に見守られながら、先生方の細やかなご指導の中で様々なわくわくに会い、のびのびと自己を表現し、たくましく日々を過ごしている子どもたちの姿がまぶしく感じた。
- 様々な行事の中で緊張のため戸惑ったり、表現が苦手で不安になる子どもたちが見られるが、先生方がいつも静かに寄り添われ、そうすることで安心して表現できていく姿に感動した。
- 生活発表会で、各年齢に応じて子どもたちと先生が少しずつ劇を作り上げていき、そして子どもたち同士が助け合って上演してくれたことに感動し、涙があふれた。
- 園内設備・施設の老朽化は否めない。行政の整備を強く望む。
- 本園に訪問する度に、子どもたちの活気ある声と溢れる笑顔が見られた。2月に入り訪問の機会を得た。子どもたちは、いつもの笑顔と活気で満ちていた。キラキラした瞳で歌を歌ったり、友達とお話をしたりしている姿を見せてくれた。友達を思いながら行動している姿は、たくましく、自己有用感・自己肯定感の成長を感じた。認定こども園において「生涯にわたる人格形成の基礎を培う」ことが求められ、5領域を基に「育ち」の姿が示されている。全職員がまず、子ども一人一人の内面理解に努められ、発達段階を考慮し、今、「何が必要なのか」「今、何の力を育てようとしているのか」を日々の保育の中で、園の教育目標を具現化し、考えられるからだと思う。
- 鎌田幼稚園での生活で育まれた力を踏まえ、小学校での教育が円滑に行われるよう、子どもたちの「発達と学びの連続性」を大切に、今以上に小学校との連携を考えていただければと願っている。
- 小学校との連携を密にしながら、子どもたちが円滑に小学校教育に進めるよう、生涯にわたる人格形成の基礎を培うため、丁寧な関わりと豊かな経験を重ねられよう幼児理解に努める。